



新市誕生から20年 広がる、深める 郷土のあゆみ

新市誕生から20年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。

問合せ先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

第3回 幌向原野開拓と大農場経営、栗沢村と北村の分村

集治監や屯田兵などを統括するため、明治19年に北海道庁が発足し、岩村通俊が初代長官になりました。岩村は、集治監囚徒に上川郡忠別太（旭川市）に通じる上川仮道路、夕張炭山の開坑に備えた夕張道路などを開削させたほか、未開の原野を調査し、農耕地に適した土地の選定と殖民区画を進めました。岩見沢村を含む幌向原野でも調査が進められ、明治25年に岩見沢村から栗沢村が分村し、翌年から農民団体や会社組織など資本移住による開拓が進みました。

殖民区画には、300間（約540メートル）四方の道路で囲まれる30町歩（約30ヘクタール）の区画に6戸が入植、各戸5町歩が割り当てられました。栗沢村砺波に500町歩の貸下げを受けた富山の礪波団体は、孤独な開墾作業を克服するため、寄り合いやお寺参りを通して入植者が団結しながら5年を待たずに開墾を完成させました。また、かやぶき屋根の越中づくり家屋など、郷里の暮らしをまね、冷害や経済恐慌を克服しながら稲作への転換など農家経済の課題に地域として取り組みました。一方、明治30年の北海道国有未開地処分法では、会社組織による大規模農場の経営を可能にし、農耕に不向きな低湿地帯が広がる石狩川中流域でも大農場が開設されました。石狩川左岸の岩見沢村内では、山梨の北村家や信州の片倉組などが小作人を募り、大農場を開設しました。明治31年の石狩原野大洪水は、北村農場と岩見沢村市街地を結ぶ道路開削を急がせ、石狩川沿岸地域に身近な行政主体を求める機運が生まれ、明治33年に岩見沢村から北村が分村しました。

岩村が取り組んだ殖民地選定事業と資本移住政策により栗沢村と北村が誕生しましたが、村民の暮らしは、融雪期の河川氾濫などの自然災害と隣り合わせの苦労が続きました。

岩見沢村から最上方面に唯一通じる夕張道路と栗沢村初代戸長阪井馨一（明治30年ごろ）



市内のできごとをお伝えします！



4月29日（祝） 岩見沢東山公園テニスコート
リニューアルオープン記念 テニスフェスティバル岩見沢

人の動き

住民基本台帳（令和8年4月30日現在）

人口	男	33,697人	（前月比 + 17）
	女	38,532人	（前月比 - 64）
	総数	72,229人	（前月比 - 47）
うち外国人		499人	（前月比 0）
世帯数		40,040世帯	（前月比 + 97）

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）、総務部秘書課広報室へお願いします



岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
☎ 0126-23-4111（代表） FAX 0126-23-9977



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

いわみざわ公園バラ園



広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号2枠（申込多数の場合は抽選）
掲載料 各号1枠22,000円
申込期限 掲載希望号の3カ月前の月末
（9月号に掲載希望の場合は6月30日（火）までに申し込み）
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518